

シンガポールの新聞にみる中国海外移民の状況

著者	松浦 章
雑誌名	東アジア文化交渉研究 = Journal of East Asian cultural interaction studies
巻	7
ページ	395-412
発行年	2014-03-31
その他のタイトル	The Situation of Chinese Migrants Abroad in the Newspaper of Singapore
URL	http://hdl.handle.net/10112/8260



東アジアの歴史と動態

シンガポールの新聞にみる中国海外移民の状況

松 浦 章

The Situation of Chinese Migrants Abroad in the Newspaper of Singapore

MATSUURA Akira

Migrants abroad Fujian southern coast especially southern coast of China, from Hiroshi east northeastern coastal area is famous, but not been studied in detail immigrants or were conducted in any area specifically from these areas. But it is the time of, 1907-1909 years you look at the newspaper articles that were published in Singapore, one end of passengers number of arrival of ships to Singapore from Shantou (Swatow) and Xiamen (Amoy) can be seen.

So I made it clear specifically referring to the newspaper article about the number of Chinese who arrived from Singapore to Shantou and Xiamen 1907-1909 year in this paper

Keywords: Chinese Migrant Abroad Singapore Amoy Swatow Newspaper 1907-1909

一 緒 言

中国の福建省は古くから「福建僻在海隅、人満財乏、惟恃販洋」¹⁾とあるように、福建省は沿海に瀕し人は多く財が乏しく海外への貿易に依存しなければならないと言われ、余剰人口の多くが海外に進出していた。

19世紀の末の福州で刊行された新聞『閩報』光緒二十八年十一月初四日、明治35年(1902)12月3日付の第493号の巻頭に掲載された「福州米価昇貴緑白」にも、「閩省、西北背山、東南面海、足為耕種田地、約僅三分之一」とあるように、福建省では西北が山がちで、東南方面が沿海であり耕作地としては僅かに全土の三分一と見られた。このため古くから人々が海外に進出し、清代においても多くの人々が積極的に海外に航行し、貿易活動のみならず海外移民も積極的に行われている²⁾。

1) 同治『福建通志』卷八十七、海禁の条。

2) 松浦章「清代福建の海外貿易」『中国社会経済史研究』(厦門大学)1986年第1期、97-104頁。

松浦章「16-19世紀の中国・フィリピン間の海上貿易」『海事交通研究』第23集、1984年3月。

この福建南部とそれに隣接する広東省東部からシンガポールへ渡航した人々の状況をシンガポールで刊行されていた新聞の記録から見てみることにする。

二 厦門・汕頭からシンガポールへ渡航した人々

清末に東南アジアにおいて実地見聞した清朝官僚の農工商部右侍郎楊士琦の光緒三十四年（1908）二月十六日付の「考察南洋華僑商業情形」に関する奏摺にも華人の海外進出の状況が記されている。

飛獵濱群島大小千餘、以小呂宋為最巨、其地西連閩・粵、北枕臺・澎、距香港・厦門均不過二千餘里、土産以煙・糖・麻・米為大宗、転售行銷、皆操自華人之手貿易、則閩商最盛、粵商次之。³⁾

とあり、フィリピンは大小千餘の群島からなり、そのなかでもルソン島が最大で西は福建省や廣東省、北は台湾、澎湖島に連なり、香港や厦門から二千餘里に過ぎず、産物は煙草、砂糖、マニラ麻、米などが最重要産品であり、それらの交易は殆ど華僑によって行われ、特に福建商人が最大の勢力で、それに次ぐのは廣東商人であると現地での見聞を明確に記している。さらに楊士琦はベトナムのサイゴン、タイのバンコック、インドネシアのバタヴィア等地における華僑の活動を述べている。とりわけシンガポールについても、

新加坡幅員甚小、農産亦稀、自英人開埠、後免税以廣招徠、由此商舶雲集、百貨匯輸、遂為海南第一巨埠、華僑二十餘萬人。⁴⁾

とあり、シンガポールは土地も狭く、農産物も少ないが、イギリス人によって免税による開港によって船舶が多く集まり、貨物も流通し南方における最大の港になり、そこには華僑が20余万人も居住すると見られていた。

それではこれらの人々はどのようにして海外に渡航したのであろうか⁵⁾。

19世紀前半にシンガポールで刊行されていた新聞の記事から見てみたい。

“*Singapore Chronicle*”,⁶⁾ No.74, 1827年1月18日付の記事に次のように記されている。

松浦章「清代の海洋圏と海外移民」『周縁からの歴史』アジアから考える3、東京大学出版会、1994年10月、165-192頁。

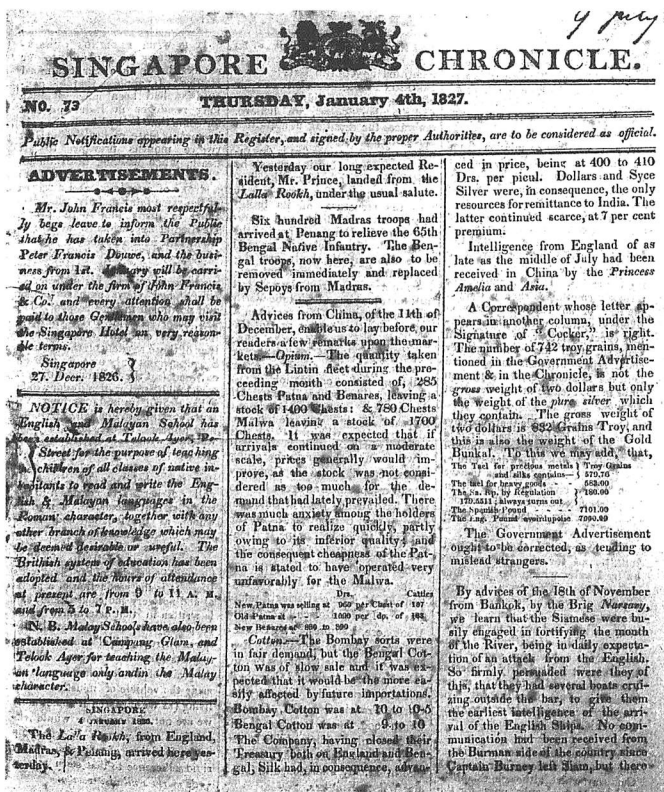
松浦章『清代海外貿易史の研究』朋友書店、2002年1月、440-451、496-521、614-668頁。

3) 中国第一歴史档案館編『清代中国與東南亞各国關係档案史料匯編』第一冊、国際文化出版公司、1998年4月、151頁。

4) 『清代中国與東南亞各国關係档案史料匯編』第一冊、152頁。

5) 松浦章「清代帆船で波濤を越えた人々」、松浦章『近世東アジア海域の文化交渉』思文閣出版、2010年11月、183-201頁。

6) “*Singapore Chronicle*” は、Indian Office Library, Londonのマイクロフィルムによった。



『シンガポール・クロニクル』第73号、1827年1月4日第1面

Within these few days two Junks have arrived from Canton, being the tust of the □□□. We are □□□□ aware that these is anything new or peculiar in the mature of their cargoes, but those who feel any curiosity on that head will find detailed list of them in the Commercial Register. One of these Junks has brought 450 Passengers, the other has not been reported as bringing any.

1827年1月18日までの数日内に、シンガポールに中国の廣州から2隻のジャンクが到着した。1隻は貨物を積載したジャンクで、もう1隻には貨物ではなく450名の乗客が搭乗していた。

“Singapore Chronicle”, No.75, 1827年2月1日付に次の記事が見られる。

Since our last three Junks have arrived, two from Canton and one from Emmoi; one of the former has brought an addition to our population of 700 men, the other 300, and the one from Emmoi 200.

昨年以來3隻のジャンクが到着し、2隻は廣州からであり、もう1隻は厦門からである。前者の1隻はシンガポールの人口に700名を増加させる人々が搭乗し、さらに1隻には300名の人が、厦門からの1隻により200名を加えたとあるように、シンガポールに到着したジャンクによって廣州から2隻で合計1,000名が、厦門からのジャンクで200名が来航したことを報じている。

“*Singapore Chronicle*”, No.76, 1827年2月15日付には次のようにある。

Since our last several junks have arrived from Siam and one from Emmoi, the latter bringing 440 passengers.

1827年2月中旬までに数隻のジャンクがシンガポールに到着したが、その内の厦門からの1隻に440名の乗客が搭乗していた。

“*Singapore Chronicle*”, No.77, 1827年3月1日付には次のようにある。

Two Junks have arrived since our last from Emmoi, one bringing 240 and the other 276 Passengers.

2隻のジャンクが、昨年以來厦門から到着し、1隻に旅客が240人、もう1隻からは276人が来航したと報じているように、厦門から276名がシンガポールに到着した。

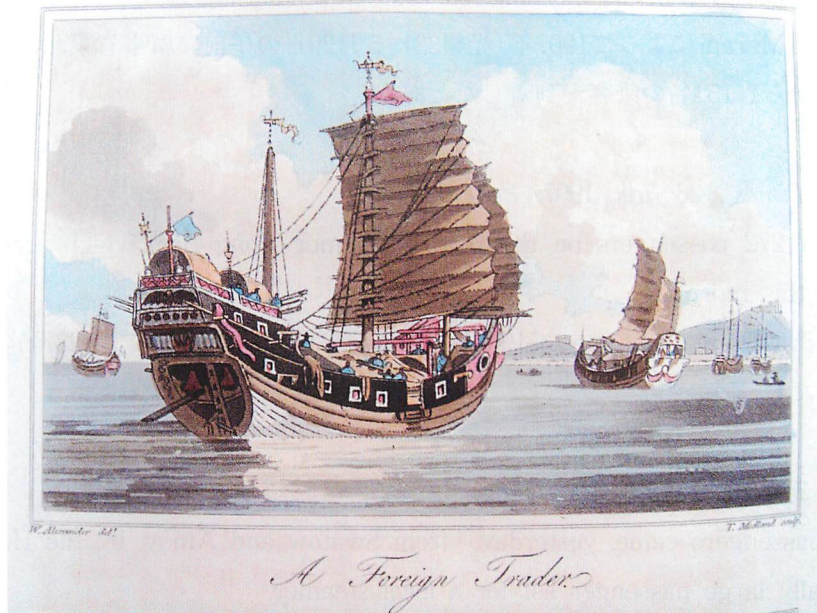
“*Singapore Chronicle*”, No.77, 1828年2月28日付には次のようにある。

The number of Junks which have already arrived this year is three, all of the from Canton. One of them has brought 500 passengers, another also 500, and third 200, altogether 1,200. The people of one of these vessels were reduced to the last extremity by famine, having been out much longer than they had calculated on, owing to the junk having sustained some damage by striking on a rock which obliged them to use only one sail; besides which they state that they had more of calms and light winds on the passage than is usually experienced.

Since writing the foregoing another Junk of estimated burthen of 600 Tons has arrived from Amoy bring 423 passengers. The cargoes of all these vessels will be found detailed in the Commercial Register.

1828年の年頭から2月末までに到着したジャンクの隻数は、カントンから3隻があり、どのジャンクにも、500人の乗客は、別にも500、さらに200名の乗客がおり、合計1,200名がシンガポールに上陸したのであった。これらの乗客は、一隻が岩礁にぶつかり被害を受けたが、一本のマストで航行するなどの困難な航海であったが、彼等は比較的落ち着きついていたようであった。推定600トンの積載能力のあるジャンクが厦門から到着したが、同船には423人の乗客がシンガポールに到着している。

これらの記事は、1827、1828年、清朝の年号では道光七、八年のことであるが、中国の廣州や厦門からシンガポールに来航する数百名の中国人が渡航してきたのであった。これらの人々は今日の観光客ではなく、海外移民を志す華人であったことは想像に難くない。



A Foreign Tnaden (John Baroow, *Travels in China*, 1804, p.37.)

シンガポールと廈門は、不定期ではあるが恒常的にジャンクの往来がみられたことは、1830年3月29日にJohn Crawfordが、イギリス議会においておこなった証言の中で「私は福建のアモイ（廈門）からのジャンクの積荷の明細書の一覧表を得た。その船は、1824年1月25日にシンガポールに到着したもので、15日の航海を要している」⁷⁾と語っていることから知られる。さらにNg Chin-Keongもその著書の中で、廈門ジャンクの中国沿海における活発な航運活動の要因を指摘している。⁸⁾

このように中国とりわけ廈門や廣東などの華南沿海のジャンクがシンガポールへ大量の人員を搭載して航行していたのである。

三 1907-1909年のシンガポールに到着した廈門・汕頭からの乗客

20世紀になっても、廈門からシンガポールへの海外渡航の傾向に拍車がかかっていたのである。そのことは、同じシンガポールの新聞⁹⁾である“*The Straits Times*”の1907-1909の記事が物語っている。

“*The Straits Times*”, 29 May 1907, Page 6.

There were 1,154 passengers from Swatow and Amoy on the Dutch steamer Merapi, which

7) *First Report from the Select Committee on the Affairs of the East India Company*, (China Trade), 8 July 1830, p.322

8) NG Chin-Keong, “Trade and Society, The Amoy Network on the China Coast 1683-1735, Singapore University Press, 1983.

9) 以下に引用した新聞はNational Library Singaporeのデータベースを利用した。

arrived from those ports, this morning, en route to Sauiarang.

ドイツの汽船Merapiによって1907年(光緒33)5月29日の午前に廣東省東北沿海の汕頭と福建省南部の廈門港から1,154名の乗客が到着したとある。

"The Straits Times", 26 June 1907, Page 6.

There were 1,272 passengers on the British steamer Hong Bee, which arrived from Amoy and Swatow, this morning.

イギリスの汽船Hong Beeによって1907年6月26日に廈門と汕頭から1,227名の乗客がシンガポールに到着した。

"The Straits Times", 16 July 1907, Page 6.

Over 1,600 passengers came, yesterday, from Swatow and Amoy, by the Hong Moh. This is an exceptionally large passenger list for a local steamer.

1907年7月15日に汽船Hong Mohによって汕頭と廈門から1,600名以上の乗客が到着した。

"The Straits Times", 14 August 1907, Page 4.

About 400 passengers arrived, this morning, from Calcutta and Penang by the Nam Sang, and 427 from Swatow and Amoy by the Simongan. The steward of the latter ship is very ill and has been sent to hospital.

1907年8月14日の午前にインドやバナンからの400名の乗客がシンガポールに到着したが、さらに汕頭と廈門からSimongan船により427名が来航し、この中国からの船の船客係は病状が悪化していたため直ちに病院に送られたと報じられている。

"The Straits Times", 5 September 1907, Page 6.

Almost a thousand passengers from Swatow and Amoy arrived by the Hong Bee, yesterday afternoon.

1907年9月4日の午後にシンガポールに到着した汽船Hong Beeによって汕頭と廈門から1,000名を超える乗客が到着している。

"The Straits Times", 14 September 1907, Page 6.

Nearly 800 passengers came down from Amoy and Swatow by Wee Bin and Company's steamer Glennfalloch, this morning.

1907年9月14日の午前にWee Bin会社の汽船Glennhallochによって800名に近い乗客がシンガポールに到着した。

"The Straits Times", 21 September 1907, Page 6.

A total of 1,469 passengers arrived from Amoy and Swatow, this morning, by the steamer Glenogle.

1907年9月21日の午前、汽船Geleogle号によって厦門と汕頭から1,469名の乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 8 October 1907, Page 6.

Twelve hundred and sixty-two passengers arrived from Amoy and Swatow, this morning, by the Wee Bin and Company's steamer Hong Bee.

1907年10月8日の午前、Wee Bin会社の蒸気船Hong Bee号によって厦門と汕頭から1,262名の乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 14 November 1907, Page 6.

Over 500 passengers arrived from Swatow this morning, by the North German Lloyd steamer Tsintau. Over 900 more, from Amoy and Swatow, arrived by the local steamer Hong Bee.

1907年11月14日の午前中に北ドイツのLloydk会社の汽船Tsintau号により汕頭から500名以上の乗客が、そして汽船Hong Bee号によって厦門と汕頭から900名以上の乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 30 November 1907, Page 8.

Over 800 passengers arrived from Amoy and Swatow, yesterday, by the local steamer Chong Chew. An infant died on board on Tuesday, and was buried at sea.

1907年11月29日に汽船Chong Chewにより厦門と汕頭から800名をこえる乗客がシンガポールに到着した。木曜日(28日)¹⁰⁾に船内で幼児が死亡し海に埋葬されたと報じている。乗客の中にも幼児が含まれていたことがわかる。

“*The Straits Times*”, 17 January 1908, Page 8.

Over fifteen hundred passengers arrived from Amoy and Swatow by the British steamer Glenogle, yesterday afternoon.

1908年1月16日の午後、イギリスの汽船Glenogleによって厦門と汕頭から1,500名以上の乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 4 March 1908, Page 6.

From Amoy and Swatow, this morning, 1,842 passengers arrived by the British steamer Glenogle.

10) 1907年11月28日は木曜日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』中華書局、1981年10月、784頁）。

1908年3月4日の午前にイギリス汽船Glenogle号により1,842名の乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 2 March 1908, Page 6.

Messrs. Wee Bin and Company's steamer Hong VWan I. arrived from Amoy and Swatow, yesterday, with 1,140 passengers.

1908年3月1日にMessrs. Wee Bin会社の汽船Hong VWan I号により、厦門と汕頭から1,140名に乗客がシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 31 March 1908, Page 6.

The Russian steamer Meteor arrived, this morning from Shanghai in ballast. By Messrs. Wee Bin and Company's steamer Hong Wan I, there arrived from Amoy and Swatow, 1,465 deck passengers, and by the German steamer Devawongsee, from Swatow. 917 deck passengers.

ロシア汽船Meteor号が1908年3月31日の午前に上海から積荷にバラストを積載してシンガポールに到着した。またMessrs. Wee Bin会社の汽船Hong VWan I号が厦門と汕頭から乗客1,465名を搭乗させシンガポールに到着した。さらにドイツ汽船Devawongsee号により汕頭から917名が到着した。この2隻の汽船の乗客はデッキすなわち甲板に乗船したとあることから、おそらく安価な運賃で搭乗していたことは確かである。

“*The Straits Times*”, 28 April 1908, Page 6.

Three infants died on the Dutch steamer Merapi, which arrived from Amoy and Swatow, on Saturday, on the way down from China. There were 771 passengers on board.

中国からのドイツ汽船に乗船して厦門と汕頭から到着した3名の幼児が土曜日(4月25日¹¹⁾)に死亡していた。この船の船内に771名の乗客がおり、シンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 17 June 1908, Page 6.

From Amoy and Swatow 674 passengers arrived, yesterday, by Messrs. Wee Bee and Company's steamer Hon Wan I. The German steamer Devawongsee arrived from Swatow, this morning, with 272 passengers.

1908年1月16日に、Messrs. Wee Bee汽船のHon Wan I号により厦門と汕頭から674名の乗客が到着した。ドイツ汽船Devawongsee号により17日の午前に272名の乗客が汕頭からシンガポールに到着した。

“*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*”¹²⁾, 7 July 1908, Page 8, SHIPPING

11) 1908年4月28日は火曜日である、直近の土曜日は4月25日である(鄭鶴声編『近世中西史日対照表』785頁)。

12) “*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*” は1884年から1942年まで刊行されていた。

NOTES.

It is notified that Quarantine Restrictions against the ports of Swatow and Amoy on account of small-pox are withdrawn. The homeward German mail steamer Kleist came in last night about 7 p.m. She leaves for Europe to-day. On the arrival of the "Kistna" from Malacca yesterday, Chinese youth, a cripple, was found concealed in a box on board. He is to be sent back Malacca. Quarantine restrictions with regard to smallpox have been withdrawn on vessels arriving from Amoy and Swatow.

天然痘に関して汕頭と廈門からシンガポール港に到着する乗船者に対して検疫拘束が撤回されたことが通知された。復路ドイツ郵船クライスト号が、7月6日の午後7時に到着した。同船は7日にヨーロッパに向けて出発する、昨夜マラッカからキストナ号が到着し、6日に中国の若者が重体で船上のボックスに隠されていたのが発見された。彼はマラッカに送り返されるとされた。天然痘に関する検疫拘束は、廈門と汕頭から到着する船舶に対しては撤回されるとする報道であった。

"*The Straits Times*", 24 August 1908, page 6.

At noon on Saturday, the British steamer Glenfalloch arrived from Amoy and Swatow with 731 passengers. There were four deaths en route, two from cholera. The passengers were landed at St. John's Island and the ship was fumigated and released.

土曜日（8月22日¹³⁾の正午にイギリス汽船Glenfallochが廈門と汕頭から731名の乗客を搭乗させシンガポールに到着した。航路上で4名が、コレラで2名が死亡していた。乗客はセントジョンズ島に上陸させられ、この船は燻蒸されそして解放された。

"*The Straits Times*", 10 September 1908, page 6.

From Amoy and Swatow, yesterday, 1,269 passengers arrived by Messrs. Wee Bin and Company's steamer Hong Moh. Captain Bainbridge reports that a Chinese woman died of heart failure and was buried at sea, on Tuesday.

1908年9月9日に、廈門と汕頭から1,269名の乗客が、Messrs. Wee Bin 会社の汽船Hong Moh号によりシンガポールに到着した。この船の船長ベインブリッジは、乗客の中国人女性が火曜日（8日¹⁴⁾）に心不全で死亡し海に埋葬されたことを報告した。移民者の中には多数の女性も含まれていたことは確かであろう。

"*The Straits Times*", 23 September 1908, page 6.

Over a thousand passengers arrived from Amoy and Swatow by Messrs. Wee Bin and Company's steamer Glenfalloch.

13) 1908年8月24日は月曜日であり、直近の土曜日は8月22日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』786頁）。

14) 1908年9月10日は木曜日であり、直近の火曜日は9月8日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』786頁）。

1908年9月23日に厦門と汕頭から Messrs. Wee Bim 会社の汽船 Glenfalloch 号により1,000名を超える乗客がシンガポールに到着した。

“*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*”¹⁵⁾, 13 October 1908, page 8, SHIPPING NOTES.

The Imp. German mail steamer Kleist having left Colombo on the 11th instant at 10 am may be expected to arrive here on Friday afternoon. The N.D.L. steamer Luetzow arrived at 11am yesterday, from Yokohama and she will leave at 1 pm to-day for Bremen with the German mail for Europe via Naples.

The Hong Moh from Amoy and Swatow brought down 1768 deck passengers, all well.

ドイツ帝国の郵船クライスト汽船は、今月の11日の午前10時にコロomboを就航して金曜日（16日¹⁶⁾）に到着する予定である。N. D. L.汽船のLuetzow号は横浜から、昨日12日の午前11時に到着した。同船はナポリを経由してヨーロッパへのドイツ郵船でブレーメンにむけて13日の午後1時に出港する予定であった。シンガポールの国際港としての繁栄の一端を記している。

The Hong Moh号が、甲板に乗客1,768名を搭乗させシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 20 October 1908, page 6.

From Amoy and Swatow, 725 passengers arrived by the local steamer Cheang Chew, this morning.

厦門と汕頭から725名の乗客が地元の汽船Cheang Chew号により、1908年10月20日の午前中にシンガポールへ到着した。

“*The Straits Times*”, 27 October 1908, page 6.

From Amoy and Swatow, 1,166 passengers arrived, on Sunday, by the British steamer Glenfalloch, belonging to Messrs. Wee Bin and Company. The Captain reports that, at 4.30 p.m. on October 21, he passed an upright spar, standing 10 feet above water, apparently attached to a submerged junk, in latitude 14.35 and longitude 112.2 East.

厦門と汕頭から1,166名の乗客が日曜日（25日¹⁷⁾）にイギリス汽船Glenfalloch号でシンガポールに到着したが、この汽船はMessrs. Wee Bin会社のものである。船長は10月21日午後4時30分に、緯度14.35、経度112.2の東で、水の上に10フィートに立って明らかに水没しかかったジャンクに襲われたが直ちに通過したと報告している。

15) “*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*” は、1884年から1942) 年まで刊行されていた。

16) 1908年10月13日は火曜日であり、直近の金曜日は10月16日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』786頁）。

17) 1908年10月27日は火曜日であり、直近の日曜日は10月25日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』786頁）。

“*The Straits Times*”, 3 November 1908, page 6.

Messrs. Wee Bin and Companys steamer Hong Bee arrived from Amoy and Swatow, yesterday, with 1,484 passengers.

Messrs. Wee Bin 会社の汽船 Hong Bee 号が1908年11月3日にシンガポールに到着したが、廈門と汕頭からの1,484名が搭乗していた。

“*The Straits Times*”, 15 December 1908, page 6.

The Chinese coolie trade seems to have begun again in earnest. Messrs. Wee Bin and Company's steamer Hong Wan I. arrived from Amoy and Swatow, this morning, with 1,330 passengers.

中国人の苦力貿易が本格的に再び始まったようで、Messrs. Wee Bin 会社の汽船 Hong Wan I 号が、1908年12月15日の午前に到着し、1,330名の乗客が廈門と汕頭からシンガポールに上陸したのであった。

1909年の記事

“*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*”¹⁸⁾, 12 January 1909, page 8, SHIPPING NOTES.

The Hong Bee arrived from Amoy and Swatow on Sunday with 1,439 Chinese passengers.

Hong Bee 号が、日曜日（1月10日）¹⁹⁾に廈門と汕頭からの1,439名の乗客とともにシンガポールに到着した。

“*The Straits Times*”, 23 February 1909, page 7, Local Shipping News.

The Dutch steamer Merapi arrived from Amoy and Swatow, this morning, with a case of small-pox on board. Capt. Uldall of the Dutch Steamer Amerapi, which arrived this morning from Amoy, reports a case of small-pox on board. She brought 630 passengers for Singapore, Penang and Samarang. The Italian steamer Ischia also came in, this morning, from Hongkong, with 220 passengers.

オランダの汽船 Merapi 号は、1909年2月23日の午前に廈門と汕頭からシンガポールに到着したが、船内には天然痘の患者がいた。アモイから23日の午前に到着したオランダの汽船 Amerapi 号の船長 Uldall は、船内に天然痘の患者がいることを報告している。同船には、シンガポールとペナンとサマランガに赴く乗客630名が搭乗していた。イタリア汽船 Ischia 号もまた23日に香港から220名の乗客を搭乗させて到着した。

18) “*The Singapore Free Press and Mercantile Advertiser*” は、1884-1942年間にシンガポールで刊行されていた。

19) 1909年1月12日は、火曜日であり、直近の日曜日は1月10日である（鄭鶴声編『近世中西史日対照表』787頁）。

"*The Straits Times*", 4 May 1909, page 8, Local Shipping News.

The British steamer Den of Kelly arrived from Saigon, this morning, en route to Bordeaux, with a cargo of rice. Over 1,400 passengers arrived from Amoy and Swatow, last night, by Messrs. Wee Bin and Co.'s steamer Hong Bee. The Indo China Steam Navigation Co.'s steamer Fook Sang brought from Hongkong, yesterday, twelve Chinese Chow pups to be transhipped to the steamer Indrasamba, which is bound for New York. There were nearly a thousand passengers on board.

イギリス汽船のDen of Kelly号はが1909年5月4日に午前サイゴンからシンガポールに到着した。同船はボルドーへ向かう予定で、積荷は米穀であった。3日の夜に、1,400名の乗客がMessrs. Wee Bin会社の汽船Hong Bee号でシンガポールに到着した。インド中国汽船会社の汽船Fook Sang号が、3日に香港から到着したが、同船には、12匹の中国産のチャウチャウの子犬が載せられ、ニューヨーク行きの汽船Indrasamba号に積み替えられた。同船にはほぼ千人の乗客があった。

"*The Straits Times*", 11 May 1909, page 8, Local Shipping News.

From Amoy and Swatow, 2,081 Chinese passengers arrived, this morning, by Messrs. Wee Bin and Co.'s steamer Hong Moh.

廈門と汕頭から、2,081名の中国人乗客が、Messrs. Wee Bin会社の汽船Hong Moh号で、1909年5月11日にシンガポールに到着した。

"*The Straits Times*", 1 June 1909, page 5, Local Shipping News.

From Amoy and Swatow, 835 passengers arrived, this morning, by the German steamer Sexta.

廈門と汕頭からの835名の乗客が1909年6月1日の午前ドイツ汽船Sexta号でシンガポールに到着した。

"*The Straits Times*", 3 September 1909, page 5, News Items.

From Amoy and Swatow, 846 passengers have arrived by Messrs. Wee Bin and Co.'s steamer Glenfalloch: 225 more have come Swatow by the N D. L. steamer Samsen.

廈門と汕頭からの846名の乗客が、Messrs. Wee Bin会社の汽船Glenfalloch号でシンガポールに到着した。225名以上が汕頭からN D. L.の汽船Samsen号で到着した。

以上の記録が1907-1909年のシンガポールの新聞に見られる。いずれの記録にも廈門や汕頭からシンガポールに到着した中国人乗客が見られる。その人数を合計すると1907年が11,184名、1908年が15,097名、1909年が6,601名とこの三年分で合計32,882人にのぼる。これに対して中国側の記録を見てみたい。

中国海関の記録では1881年（光緒8年）の頃の汕頭や廈門からの記録が知られる。*China. Imperial Maritime Customs, Returns of Trade at the Treaty Ports, for the year 1881.*の'Swatow Trade

Report, for the year 1882.'に次の記録が見られる。

Passenger Traffic Never has the Swatow passenger traffic been so brisk as in the year under review. 71,301 Chinese left the port in Foreign vessels, against 49,356 in 1881, the last total being higher than that of any previous year. Most of the passengers embarked for Singapore, Bankok, or Hongkong. Constant emigration hence to Bankok is a novelty, being inaugurated last year by the establishment of regular steamer communication. The passenger traffic generally was greatly stimulated by the low rates of passage offered by the competing steamer companies. Fares(including board) have been as low during as low during the years as \$2,50 to Singapore, \$2 to Bankok, and 10 cents to Hongkong.²⁰⁾

1882年スワトウ貿易

乗客の輸送は、スワトウの旅客輸送は当期ほど活発ではありませんでした。71301名の中国人が外国の船でこの港を出港し、それに対して49,356人が帰港しました。最新の統計では前年に比べて高かった。乗客のほとんどがシンガポール、バンコックあるいは香港に赴いた人々である。とくにバンコックへのまとまった数の移民は、新規性のあるものであり、昨年発足した汽船の定期航路の確立によるものである。旅客輸送が一般的に大きく、競合する汽船会社が低料金を提供したことに刺激された。運賃は一年以内であればシンガポールへは2.50ドル、バンコックに2ドル、および香港には10セントと低価格であった。

Amoy Trade Report, for the year 1889.

The passenger traffic, though not attaining to the unprecedentedly high figures of 1888, surpassed that of all years previous, the total number of Chinese who left and returned having been 123,038, or nearly 5,000 more than in 1887, when the highest known record had been achieved. The largest traffic, as usual, took place with the Straits, to which place same quarter being given as 23,997 only.

Manila took away 12,029, and sent back 8,873. The average rate of passage for coolies to Singapore during 1889 was \$4.93, including food, per head; to Penang the cost was \$1.50 more. These rates are about half what used to prevail eight or nine years ago.²¹⁾

1889年のアモイ貿易報告

旅客輸送は、1888年のこれまでにない高い数字に到達していないが、以前のすべての年のそれを上回り、123,038人であった。1887年の時に比べてほぼ5,000人以上が増加している。最大の人数は、

20) 『中國舊海關史料』第9冊（全170冊）、京華出版社、2001年10月、806頁。

21) 『中國舊海關史料』第15冊（全170冊）、京華出版社、2001年10月、390頁。

いつものように、海峡植民地へは全体の四分の一に相当する23,997人であった。

マニラへは12,029人が赴き、8,873人が帰港した。1889年中のシンガポールへのクーリー乗客の平均運賃は、一人当たり食品を含め4.93ドルであった。ペナンのコストは1.50ドル以上であった。これらの料金は8年か9年前に比べるとほぼ約半分となっている。

Swatow Trade Report, for the year 1889.

Passenger Traffic As compared with 1888, outward traffic steadily increased—to the Straits, from 38,401 to 42,258; and to Siam, from 8,555 to 9,171. The Deli traffic worked smoothly, and 3,825 emigrates left, against 1,341 in 1888. Including passengers to and from Hongkong and coast ports, 77,317 Chinese left, and 57,462

Chinese returned to, Swatow during 1889.

The system of controlling emigration here works very well, and no serious complaints of kidnapping have reached me. But here, as everywhere else, some Chinese "jump the bounty," as it is termed, i.e., jump overboard from the outgoing steamers between Swatow and Bill Island, in order to earn cheaply the advance which their friends obtain as an earnest of future remittances. Such emigrants are not victims of fraudulent inducements to go abroad.²²⁾

1889年のスワトウ報告

旅客輸送 1888年と比較してみると、海外への渡航は確実に増加している。

特に海峡植民地へは38,401人から42,258人に、シャムへは8,555人から9,171人となった。デリーへの旅客数は順調に推移し、1888年は3,825人の移住が見られ、1,341人が帰国した。香港と沿海の港への旅客数は、1889年の間のスワトウだけで77,317人の中国人が出国し、57,462人が帰国した。

ここでの移民形態のシステムは非常にうまく機能し、特に深刻な問題が聞かれない。しかしここでは誰もが、中国語へ「報奨金への挑戦」と呼ばれ、飛躍は海外とスワトウとビル諸島との間を航行する汽船によって行われていた。彼らの友人が将来送金してその進歩を獲得するのである。このような移民者は海外へ行く詐欺の勧誘による被害者ではなかった。

Swatow Trade Report, for the year 1892.

Passenger Traffic. The total number of departure of Chinese passengers amounted to 62,465, and the arrivals to 50,261. Since the middle September last competition has been very keen between the various lines of steamer engaged in the passenger traffic between Swatow and the Straits, and a cutting down of rate has resulted. The average charge for a passage to Singapore has been as low as \$2.50, and is now \$3.50. A considerable number of emigrants from parts of the country along the confine of the Fukkien province, whose outlet according

22) 『中國舊海關史料』第15冊（全170冊）、京華出版社、2001年10月、420頁。

to geographical position should have been Amoy, took ship at this port. Amoy rates of passage money were maintained at figures about \$1.50 higher than those ruling here, a sufficient difference to make it worth the while of intending emigrants from the borders to commence their sea voyage from Swatow. The benefit of the reduction in rates did not, however, fall to the share of the passenger alone, but also the coolie hong.²³⁾

1892年のスワトウ貿易報告

旅客者数 中国の乗客の出港者の総数は62,465人に達し、帰国者は50,261人であった。さる9月の中頃以来、スワトウと海峡植民地間の旅客輸送に従事する汽船の様々な航路があり活発に競争している。両地間の航運に非常に熱心であったが、シンガポールへの旅客の平均運賃は最低が2.50ドルであったが、現在では3.50ドルでもある。福建省の沿海部の都市からの移民の多くがこの汽船航路を利用していった。アモイでの貨幣価格での運賃は、ここよりも約1.50ドル高い数字を維持した。スワトウから自ら海を航海して省境を越えて移民してもその価値に値するために、運賃の廉価さは決して旅客一人に限られていなかった。

このような海外渡航者を輩出した、中国側の事情を日本の「領事報告」からみると明治39年（光緒32、1906）4月21日付の在厦門帝国領事館報告の「南洋行福建省出稼民情状」には、

福建省ノ海外出稼移民業ハ頗ル盛大ニシテ、延ヒテ当地ノ通商貿易上ニ及ボス影響顯著ナルモノアル。（中略）南洋ニ出稼スル移民ハ、当福建省漳州府・泉州府及永春州人最多数ヲ占メ、興化府仙遊縣及福州府福清縣人其次位ニ列セルガ、其出稼人員ハ年ニ依リ増減アル。²⁴⁾

と記し、東南アジアに渡航した福建人の地域的傾向は漳州府・泉州府・永春州の順に上位を占め、興化府仙遊縣や福州府福清縣の人々がそれに次いでいたことが知られる。

福建省に関する日本の「領事報告」に、大正9年（1920）4月27日付の在厦門帝国領事館報告と同年6月の在福州帝国総領事館報告がある。両者は一冊としてまとめられ大正10年（1921）6月上梓として外務省通商局から『福建省事情』として刊行された。前者は第一巻「在厦門帝国領事館管轄区域内事情」、後者は第二巻「在福州総領事館管内事情」である。

日本人による福建省の調査報告にはさらに東亜同文会の『支那省別全誌 第十四巻 福建省』がある。同書は明治40年（光緒33、1907）より大正5年（民国5、1916）にかけて福建省を中心に調査しまとめられたものであるが、その第一編第五章に「福建の海外移民」の項目があり、

福建省は出稼移民を海外に各地に出し、其人数に於ては広東省に並ぐ屈指の地とす。而して省内最

23) 『中國舊海關史料』第18冊（全170冊）、京華出版社、2001年10月、454頁。

24) 『通商彙纂』明治39年第34号、35頁。

も出稼移住の盛なる地方は、泉州、漳州、興化及福州四府下の諸縣及永春州にして、永春州の如きは全村の壯丁悉く海外に渡航すと云ふ。而して四府よりの移住者を平均する時は、人口の四十分の一は海外にありと云ふべく、福清縣は二萬人にして、人口の三十三分の一に当り、長樂縣は一萬（三十分の一）を算す。要するに福州、厦門等の都会附近及沿海諸縣地方は渡航者多くして、延平、建寧、邵武各府下の如き山郷の地は之を見ること少なし。²⁵⁾

と福建省の海外移民を輩出していた地域状況を述べている。

『福建省事情』、第一卷「在厦門帝國領事館管轄区域内事情」第二章管内ノ特長において、

顯著ナル特長トシテハ當管内ノ住民ノ他地方ニ出稼スルモノ多数ナルコトヲ挙クルヲ得ヘシ。一ハ南洋ニ赴クモノ、他ハ台湾ニ行クモノ是ナリ。²⁶⁾

とあり、福建省の南部厦門方面からの海外出稼ぎとしては南洋とされる東南アジア方面及び台湾であった。特に南洋方面への必要性に関して、同報告は次のように述べている、

第一、南洋方面ノ移民 厦門港ノ入超ハ、数十年末ニシテ僅カニ南洋出稼人ノ送金ヲ以テ其ノ均衡ヲ保ツヲ得タリ。此地方特ニ生産業ノ見ルヘキモノナク、僅少ノ農産物ヲ出スニ過キス為メニ大多数ノ住民ハ単ニ消費者トシテノミ生存スルノ状態ナレハ生活ノ物資ハ多ク之レヲ外国ニ仰カサルヘカラス。而シテ此等多数ノ消費者ハ其財源ヲ何處ニ求ムルカ他ナシ。南洋移民ノ送金ニ依ルモノナリ。其額年数百万弗ニ上ルト云フ。従テ其南洋トノ往来頻繁ニシテ其数八十萬ニ達ス。船会社ハ貨物ノ運賃ニ比シテ遙カニ大ナル収益ヲ之レニ求ムト云フモ過言ニアラス。²⁷⁾

福建省の地理的状况から海外とりわけ南洋移民の必要性は、農業生産力の低さを南洋への移民による本国送金の総額が大きな意味を持っていた。また彼らによる福建省から海外居住地との間の往来は、船会社にとってこれらの旅客輸送は貨物輸送よりも収支の上で大きな比重を占めていたのであった。

同報告で指摘する南洋とは如何なる地であったかについて、

出稼地ハ主トシテ新嘉坡、「ピーナン」、呂宋、暹羅、安南、爪哇、「スマトラ」、「セレベス」、「ビルマ」等ナリ。²⁸⁾

とあるように、シンガポール (Singapore)、ペナン (Penang)、フィリピン (Philippine)、カンボジア

25) 『支那省別全誌 第14卷 福建省』東亜同文会、1920年1月、18-19頁。

26) 『福建省事情』4頁。

27) 『福建省事情』4頁。

28) 『福建省事情』4頁。

(Cambodia)、ベトナム (Vietnam)、ジャワ島 (Java I.)、スマトラ (Sumatra I.)、カリマンタン (Kalimantan I.)、ミャンマー (Myanmar) 等の地であり、清代の状況²⁹⁾と大きく差異はなかった。

特に厦門から東南アジア各地に進出する福建省の地域は、

厦門ヨリ出ツルモノハ、北ハ福州ヨリ南ハ漳州ニ至ル海岸近接ノ地方ニシテ漳州及泉州ヲ第一トシ、興化、永春地方ノレニ次ク。福州府下ニアリテハ福清縣、長樂、侯官、閩縣ノ地方最モ多シ。之レ沿海地方ノ渡航俟可ナルト。³⁰⁾

とあり、福建省沿海部において北は福州府治下の福清縣、長樂、侯官、閩縣や興化、永春地方、漳州府などが主要な海外進出地であった³¹⁾。

大正4年(1915)12月に外務省通商局の『汕頭事情』第十九章、移民によれば、

…是等移民の出身地は廣東、福建を重なるものとなしたるが如く香港、汕頭、厦門は之れが媒介港たること近代統計の示す所たり。就中汕頭、厦門を以て其主たるものとす汕頭、厦門二港より出でたるもの過去十ヶ年に於ける年平均数は十六萬人以上に達せり。而かも内十萬人は當港出身に属す。其多くは潮州府下、嘉應州下各縣にして南洋各地に巨萬の富をなし、或が巨資を携へて歸郷したるもの尠ならず、此兩者は郷關の營利事業に投資し、又前者は土産の多買者たり。斯くして當地方と南洋方面とは通商及經濟上に密接の關係を有すること、なり。³²⁾

とあるように、汕頭からも多くの人々が海外移民を行っていたことが知られるであろう。その移民地について同書では、

其分布状態は暹羅を第一として新嘉坡を除く馬來半島之れに亞ぐ地域概数を表示すれば左の如し。

○汕頭移民地別概數表（漢数字をアラビア数字に変換した）

暹羅	950,000人	安南	70,000人	新嘉坡	50,246人
マラッカ	6,596人	彼南	29,430人		
馬來半島（新嘉坡、マラッカ、彼南を除く）	175,000人				
爪哇	73,000人	其他蘭領印度諸島	85,000人		
日獨領諸島	35,000人	比律賓群島	8,000人		

29) 松浦章「清代の海洋圏と海外移民」『周縁からの歴史』アジアから考える3、東京大学出版会、1994年10月、165-192頁。松浦章『清代海外貿易史の研究』614-635頁。

30) 『福建省事情』4頁。

31) 松浦章「清代の海洋圏と海外移民」181頁。松浦章『清代海外貿易史の研究』627頁。

32) 外務省通商局『汕頭事情』（在汕頭帝國領事代理副領事河西誠報告）大正4年(1915)12月、60頁。国会図書館近代デジタル資料による。

緬甸	15,000人	計 1,497,272人 ³³⁾
----	---------	-----------------------------

この『汕頭事情』は1915年12月までのことをまとめたものであるが、汕頭から東南アジアに150万人もの移民が見られたことになる。

四 小 結

上述のシンガポールの新聞記事から廈門・汕頭からシンガポールへ渡航してきた中国人の乗客の状況を1907-1909年にわたり逐次確認してみたが、その人々を輩出した事情について、ほぼ同時期の日本の領事報告に記録されていた「出稼」、「出稼移民」など記されるものと一致するであろう。そしてシンガポールへ一端上陸した中国人の多くは、日本の「領事報告」が指摘するように、「出稼地ハ主トシテ新嘉坡、「ピーナン」、呂宋、暹羅、安南、爪哇、「スマトラ」、「セレベス」、「ビルマ」などの東南アジアの各地に赴いたことは想像に難くないであろう。事実“*The Straits Times*”, 23 February 1909, page 7, Local Shipping Newsが、1909年2月23日の午前に廈門からシンガポールに到着したオランダの汽船 Amerapi号には、シンガポールとペナンとサマランガに赴く乗客630名が搭乗していたと報じていることがその事実を明確に裏付けているといえるであろう。

このようにシンガポールにおいて刊行されていた各新聞には、中国の華南地区の廈門や汕頭から、これらの地域の人々が、19世紀の前半には中国の帆船いわゆるジャンクでシンガポールに運ばれ、19世紀末から20世紀になるとイギリス、ドイツ、オランダなど各国の汽船に搭乗してシンガポールに渡航し、そしてシンガポールを起点に東南アジアとりわけインドネシア、インドシナ半島の各地に移住して行った事実を明示していると言えるであろう。

33) 『汕頭事情』61頁。